

# 国立大学法人千葉大学の平成 16 年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

千葉大学は、首都圏に位置する大規模な文理融合型の総合大学で「常に一層高きものへ」をモットーにし、世界的な研究拠点の形成と高度専門職業人の養成を目指しており、平成 16 年度は全体的に改革計画に沿って運営されている。

学長のリーダーシップとしては、理念・方向性を示すことを第一義とし、その上で教職員に自発的な行動を促し、これを支援するという学長の姿勢が明確であり、教職員がこれに呼応し、全員が積極的に改革を進めている。

運営体制としては、6名の理事に加え、4名の学長補佐（入試、知的財産、国際、労働安全衛生）を配置し、当該業務の企画・立案・実行がより効果的に行われるよう、体制の整備が図られている。また、経営協議会には、多分野から10名の学外委員を選任し、経費削減、情報公開、産学連携等の具体的な意見を得ている。さらに、委員会数の大幅な削減、教授会等の開催目的の明確化等により、教職員の負担軽減を図っている。

財務内容に関しては、病院担当理事の配置等の重点施策でサポートした附属病院での経営努力が実り、3億円の収入増を得、その一部は全学的な視点で使用できるようにしている。

一方、人件費等を勘案した財政計画については、前年度の方針の継続であったが、平成 17 年度からは計画的削減を含む中期的人事方針の具体的提案がなされる予定であり、当該計画が重要になる。

また、大規模な国立大学としては初めての環境 ISO（ISO14001）の認証を取得した全学的な環境 ISO 運動の展開は、経費削減の効果以外にも、学生が主体となった特色ある取り組みとして、また、意識改革を通じて、その波及効果が期待されるところである。

教育活動に関しては、全学統一シラバスのウェブサイト公開、厳格な成績評価等の教育カリキュラムの充実や、学生相談支援室等による学生生活支援等、学長のリーダーシップの下に基本的な教育施策の充実を図っている。研究面に関しては、特に、学長裁量経費等を活用し、萌芽的研究、若手教員の育成を目的とした取り組みを行っている。

## 2 項目別評価

### (1) 業務運営の改善及び効率化

運営体制の改善

教育研究組織の見直し

人事の適正化

事務等の効率化・合理化

平成 16 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

6名の理事に加え、4名の学長補佐（入試、知的財産、国際、労働安全衛生）を配置し、当該業務の企画・立案・実行がより効果的に行われるよう、体制が整備されている。

委員会数の大幅な削減、教授会等の開催目的の明確化等により、教職員の負担軽減

が図られている。

平成 16 年度は補充人事を凍結、将来的にも削減の方針である（5 年間で 60 名程度の削減予定）。平成 17 年度からは計画的削減を含む中期的人事方針の具体的提案がなされる予定である。

学長裁量経費（4 億 4,000 万円）、部局長裁量経費（1 億 2,000 万円）により、大学の重点研究、部局横断研究、萌芽的研究、若手教員の支援に重点配分されている。

学長の下に専任職員を置く「監査室」が設置されている（平成 17 年度）。

人材プールバンクとして病院長手持ち定員を設定し、各診療科へ臨機応変な配置を可能としている。

法人化以前に時限を付して設置された附属施設のみならず、各施設の在り方について検討が行われ、存続も含め見直しを行うこととされていることは適切である。

本項目については、評価委員会の検証の結果、年度計画の記載 22 事項すべてが「年度計画を順調に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案すると、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断される。

## （2）財務内容の改善

外部研究資金その他の自己収入の増加

経費の抑制

資産の運用管理の改善

平成 16 年度の実績のうち、下記の事項が注目される（又は課題がある）。

外部資金に関する情報収集や企画立案を行うため、「先端的学術推進企画室」が設置された。また、知的財産本部が大学独自で整備されている。

外部資金獲得のため、全学的な啓蒙・支援運動を展開し、科学研究費補助金の応募件数が前年比 18 % 増、採択件数の増につながっている。また、共同研究の受入額は 35 % 増、受託研究の受入額は 45 % 増となっている。

病院担当理事の配置、非常勤看護師の常勤化等の重点施策でサポートした附属病院での経営努力が実り、3 億円の収入増を得、その一部は全学的な視点で使用できるようにしている。

人的資源の効率的な配置については、平成 17 年度に計画的削減を含む中期的人事方針の具体的提案がなされる予定であり、適切な対応が必要である。これを含め、中期的な具体的財政計画の策定が必要である。

全学的な環境 ISO 運動の展開、大規模な国立大学としては初めての環境 ISO（ISO14001）の認証を取得している。

本項目については、評価委員会の検証の結果、年度計画の記載 12 事項中 11 事項が「年度計画を順調に実施している」と認められ、上記の状況等から総合的に勘案すると、進行状況は「おおむね計画通り進んでいる」と判断される。

( 3 ) 自己点検・評価及び情報提供  
評価の充実  
情報公開等の推進

平成 16 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

事務系職員自ら業務目標を設定する「目標設定制度」が導入されている。  
全学統一の教育研究業績データベースを平成 17 年度から運用することとしており、効果的な活用が期待される。  
学術研究成果の発信を支援するシステム（「千葉大学学術成果リポジトリ」）が公開されている。

本項目については、評価委員会の検証の結果、年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を順調に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案すると、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断される。

( 4 ) その他業務運営に関する重要事項  
施設設備の整備・活用等  
安全管理

平成 16 年度の実績のうち、下記の事項が注目される（又は課題がある）。

施設の有効活用を促進するために、病院を除く全施設を対象にハード・ソフトの両面から一元的な管理方法を構築している。  
ユーザー参加型の施設管理情報システムを活用し、施設利用の実態把握を前提とする運営方法が、環境 ISO 取得活動等を通じて定着している。  
総合安全衛生機構の設置、環境 ISO 運動と連動した取り組みが行われている。

本項目については、評価委員会の検証の結果、年度計画の記載 16 事項中 15 事項が「年度計画を順調に実施している」又は「年度計画を上回って実施している」と認められ、1 事項は十分に実施できていないが、上記の積極的な取り組み等を総合的に勘案すると、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断される。

( 5 ) 教育研究等の質の向上

評価委員会が平成 16 年度の進捗状況について確認した結果、下記の事項が注目される（又は課題がある）。

「飛び入学」制度を拡大している（従来の 2 コースに加えて、文理融合型の「人間探

求コース」を設置)。

全学統一シラバスのウェブサイト公開、厳格な成績評価等の教育カリキュラムの充実や、学生相談支援室等による学生生活支援等、学長のリーダーシップの下に基本的な教育施策の充実が図られている。なお、平成 16 年度に導入した GPA 制度については、まだ十分な具体的利用に至っていないとのことであり、有効な活用を進める必要がある。

学長裁量経費(4億4,000万円)、部局長裁量経費(1億2,000万円)により、大学の重点研究、部局横断研究、萌芽的研究、若手教員の支援に重点配分されている。

学長裁量経費等により、短期海外留学プログラムや国際インターンシップが実施されている。

千葉県における街作りへの協力(柏市)や、地域医療、看護・支援、千葉県の自然環境に関する研究プロジェクトが実施されている。

附属幼稚園と附属小学校の低学年における様々な相互乗入れが実施されている。また、大学と附属学校との共同研究を実施しているが、大学、学部と一体となった取り組みを更に進めることが期待される。